

モー ほっとけない！ Hayama

発行：平成23年11月18日

ごみ問題から葉山を救う会 通信Vol.11

代表 岩崎正巳 メール hayama_gomi@live.jp

ブログ <http://ameblo.jp/hayama-gomi>

「ごみ処理は近隣自治体との協力を基本に進めるべき」

森町長のゼロ・ウェイスト政策に議会がノー！

当会の陳情を受けて議会が決議！（裏面に全文掲載）

今年4月の選挙で誕生した新メンバーの議会が、森町長が2市1町（横須賀・三浦・葉山）ごみ処理広域化協議会から一方的に離脱して進めてきたごみ処理政策「ゼロ・ウェイスト」を、**12対1という圧倒的大差で否定しました**。ダイオキシン問題で運転停止中の老朽焼却炉しかない葉山町にとって、今後安定確実にごみ処理をするには、近隣自治体との協力のもとに共同でごみ処理施設を確保することこそ、財政的にも環境的にも技術的にも、そして自治体の責務からも、葉山町にふさわしい選択であると議会が決議したのです。

3年前、議会や町民にきちんとした説明もなく全く突然、2市1町ごみ処理広域化協議会から離脱して以来、訴訟問題などで近隣自治体との関係がギクシャクしていますが、今やごみ問題に限らず、災害への対応や医療の充実など近隣自治体と連携した取り組みの必要性が高まっています。こうした中で、今回**議会が森町長と一線を画し、近隣自治体との関係を重視した方向を打ち出したことは、来年1月に町長選を控えている今、選挙後の葉山町政の運営にとって大変重要な意味をもちます**。

焼却炉停止後1年経った 今なお解決の展望なし

1日100万円のごみ処理委託費が既に4億円近く。現在は全て民間業者に！ごみは殆んど減らず、焼却炉は使えず、損害賠償請求訴訟を起こされ…。4年もの間、町長はごみの処理費軽減や安定処理のために、一体何をしてくれたのでしょうか。1日も早くこの無策と税金のたれ流しをやめましょう！

葉山町と状況がそっくりな小金井市の市長が辞職

—ごみ処理委託費は「ムダ使い」発言で—

「自前でごみ処理をしていない上に広域の組合にも参加せず、市外に委託しているのは全国的に見ても異常事態だ。歳出に占める割合が大きいごみ対策は行政にとって最重要ともいえる政策で、小金井市長は認識が甘かったと言わざるをえない。」—11月5日付朝日新聞より—

明治学院大学の熊本教授のコメントです。葉山町にそっくり当てはまると思いませんか。

葉山町のごみ問題の経過

- | | |
|----------|--|
| 2006年 2月 | 2市1町（横須賀・三浦・葉山）ごみ処理広域化協議会設立 |
| 2008年 1月 | 森町長、ごみの自区内処理を公約に掲げて当選 |
| 5月 | 森町長独断で横須賀・三浦両市に行き、ごみ処理広域化協議会からの脱退を一方的に通告（ごみ処理広域化協議継続を望む陳情を採択し、協議継続を是とした議会決定無視の暴挙） |
| 8月 | 横須賀・三浦両市から約1億4,800万円の損害賠償を請求される（12月判決予定） |
| 2010年11月 | 排水から基準値を超えるダイオキシンが検出され、県から焼却炉の運転停止の指示（以後、現在まで運転停止中）。処理できなくなった可燃ごみの焼却処理を、2011年3月末まで横浜市に委託。その後、6月末まで委託契約を延長。 |
| 12月 | 「森英二町長に対する問責決議」を町議会が11対4で可決（でも反対議員が4人も?!） |
| 2011年 3月 | 「森英二葉山町長の不信任決議」賛成10（反対6、除籍1）なるも法定の同意数が得られず否決 |
| 7月 | 横浜市への委託が継続できなくなり、千葉県、静岡県の3民間業者に委託先を変更。 |

葉山町のごみ処理を近隣自治体との協力を基本に行うことを求める決議

自区内処理を選挙公約に掲げて当選した森町長は、横須賀市、三浦市との2市1町のごみ処理広域化協議会から脱退し、脱焼却、脱埋め立てを掲げてゼロ・ウェイスト政策を進めてきた。

ごみはゼロになるから施設は不要との方針の下、34年を経過した古い焼却炉に多額の修繕費を投入して使い続け、昨年11月25日にクリーンセンターの排水から基準値を超えるダイオキシン類が検出されたことが判明して、現在焼却炉は停止したままである。

その後、ダイオキシン類基準値オーバーの原因調査と対策は遅々として進まず、10か月が経過した現在も、廃棄物処理法の趣旨に沿わない民間業者依存の処理を続け、異常事態から脱却するに至っていない。

葉山町の平成22年度の可燃ごみ量は、ゼロ・ウェイスト政策にもかかわらず、平成20年度から3.8%減少したに過ぎず、町にとってごみ処理施設の確保は避けて通れない問題である。

しかし、人口3万人余という小規模自治体である葉山町にとって、単独でごみ処理施設を整備することは、多くの困難があり、現実的でないと町の意思が示されている。

葉山町のごみ処理を将来にわたって安定的に行っていくためには、町単独ではなく、近隣自治体との協力を基本に進めていくことが現実的で、かつ財政・環境・技術上等さまざまな点で優先されるべきである。

よって、町議会は、県下トップレベルの高額なごみ処理費が町財政を圧迫していること及び町としてごみ処理責任を果たすことの2点に鑑みて、この事態を打開するために町のごみ処理政策は、近隣自治体との協力を基本に進めるべきことを是とし、葉山町議会としての意思を示すものである。

以上、決議する。

平成23年10月6日

葉山町議会

《傍聴席から》

○ただ一人反対した某議員の言い分

近隣自治体との共同でなく、葉山町単独で処理施設を確保することこそ自区内処理である。選択肢を近隣自治体との共同に限定してしまわず、町単独でごみ処理施設を整備する可能性を探りたいと。

葉山のごみ問題は、尻に火がついてボウボウ燃えている状況なのに、これから勉強したいという呑気な発言で委員会審議を混乱させました。この狭い葉山町の一体どこに、何年かけて建設するつもり？ 因みに町長は、8月30日のごみ問題特別委員会で議員の追及を受け、小型焼却炉をつくるつもりはないと答弁しています。

○対案を提案して決議内容を骨抜きにしようとした某議員

本人も同意したにもかかわらず、委員会として採択した陳情の趣旨を骨抜きにし、抽象的で、的外れな決議文の対案を提案した議員がいましたが、他の委員の賛同を得られませんでした。その意図は何？ 本当は同意したくなかったのでしょうか？

横須賀市ごみ処理施設の「環境影響予測評価実施計画書」の縦覧が町役場で始まる

建設予定地から3キロメートルの範囲に葉山町の一部が含まれることから、11月1日から12月15日まで計画書の縦覧を実施中です。このごみ処理施設は、もともと2市1町で検討を進めていた施設で、実現に向けて動き出したものです。葉山町のごみは処理してくれませんが、葉山の環境への影響が想定されることから縦覧を実施するものです。広域処理協議会から離脱していなければ、葉山のごみを燃やしてもらえたのに。

◆町長選挙の日程が決まりました

今度は良い人を選びましょう。

- 11月23日(水)／立候補事前説明会
- 1月10日(火)／告示
- 1月15日(日)／投票日